

実況中継「土曜講座」

第1号

2022年5月18日発行

市川学園 4月30日の土曜講座 於 國枝ホール

鈴木 寛 先生

情報洪水の中で生き延びる力

東京大学公共政策大学院教授・慶応義塾大学大学院教授
社会創発塾塾長・日本サッカー協会理事



鈴木寛先生のご紹介

- 1986年 東京大学法学部卒業
- 1986年 通商産業省に入省
- 2001年 参議院議員初当選
- 2014年 東京大学公共政策大学院教授・慶応義塾大学政策メディア研究科兼総合政策学部教授に同時就任
- 2014年 文部科学省参与 2015年 文部科学大臣補佐官
- 現職 東京大学公共政策大学院教授・慶応義塾大学大学院教授
社会創発塾塾長・日本サッカー協会理事 など多方面でご活躍中

主な講義内容の紹介

—— キミたちの力は無限大だよ！

講座の中で先生は生徒たちを何度も励ましてくださいました。江戸時代末期、松下村塾ではたった90人の生徒が集まり、日本を大きく変えてきた。それから月日は経過し現代、日本の15歳は相当「できる」。2000年のOECDでは科学が世界2位、数学は1位。また協働問題解決能力が高いのも日本の特徴だ。ぜひ市川の友達で集まり、「無限大の力」を発揮してこれからの時代をリードするような存在になってほしい。そのために今キミたちにやってほしいこと、それは、市川で親友を作ろう！ 今楽しいと思えることを存分にやってみよう！ 夢中になれるものを探そう！ 先生は生徒に前向きな言葉をどんどん投げかけてくださいます。

工業社会、情報社会を経て、時代は創造社会へ。インターネットエブリシング、AI時代の到来。しかし論理の部分はAIが行うこともできるが、感情の部分は人間にしかできない。先生は講座のタイトルをはるかに超える大切なことをたくさん教えてくださいました。

「大学はゴールではない。スタートのスタートのスタートだ。自分の打ち込めるものに全力を注ぐ大人になってほしい。」先生の言葉に生徒はたくさんの刺激を受けたことと思います。

受講レポートから

- ・コロナやウクライナなどの社会問題は突然起こる。そのときの判断や思考が今後の社会を支えていくのだと思う。そのために学ぶことを重視していきたい。社会に関心を持ちながら、中高生活を大切に、打ち込めるものを探していきたい。(中1)
- ・Society5.0についてよく理解できた。現実とインターネットがつながるようなシステムのことだと知り、いろいろなものにセンサーがとりつけられて、モノ同士で会話を始めていくのかと思うとすごく驚いた。(中1)
- ・「今の若者の6割は今存在していない職につく」というのがとても印象に残っていて、そのために必要なのは非連続的なイノベーションと学問 etc、数学を学ばなくてはならないと聞き、これからの時代を生きていくためにうわべだけではない深い学びが大切だと知った。(中2)
- ・世界を変えるのはどこかのお偉いさんではなく、「世界を変える」という強い意志を持った人が実現できるのだということを知ることができた。(中2)
- ・改革の原動力は「強い意志」だと実感した。自分も何か小さなものでもいいからこの世界に何かを残したいと強く感じた。変わっていく社会の中でも変わらない価値観とは何かをよく考えたい。(中3)
- ・自分の軸、夢中力をもちつつ、自分のプロジェクトXをもちたい。(中3)
- ・現在存在していないことを新しく創り出すことがこれからの世界では大切だと学んだ。(高1)
- ・人と関わる、人とコミュニケーションをとる仕事は消えないと聞き、他人の気持ちを考える力やコミュニケーション能力を育みたい。近い将来を目標にするのではなくもっと遠い未来を見据えることが大事だと思います。(高1)



・今までは漠然と社会が変わるとしか思っていなかったが、今回の講演を聴き、具体的にどう変わるかが少しわかった。AI時代、情報が常にあふれている時代では、今この世に存在しないものを創り出す力、他者との協調力といった人間らしさが大切。そのためには、今何にも縛られていない中高時代に、何かに一生懸命打ち込むべきだと思った。自分は現時点では学校の勉強と受験のことしか考えられていなかった。コロナが少し落ち着きを見せ、せつかく学校に来れるようになったのだし、これからは日常生活でも他者・仲間との関わり、自分の世界を上げ、打ち込みたいものを見つけるための課外活動、無理せず自分ができる範囲で頑張ろうと思った。精神面は大人になる必要はあるが、一心不乱に夢中で取り組む「子供力」も生きていく上では大切にしたい。(高2)

- ・中学2年のときに創造性の育成塾に参加し、鈴木先生のご講演を聴いて、「難問に立ち向かえ」「これから必要になる力は創造力だ」と仰っていたことは、3年経った今でもすごくよく覚えています。今回先生のご講義をまた聴くことができすぎて嬉しかったです。中学2年のときに先生のお話を聞いて刺激を受け、それから自分の興味あるものを極めようと、グローバルサイエンスキャンプなど色々な活動に挑戦してきました。振り返ると、先生のお話がなければこんなに頑張れなかったと思います。先生は「1本の電話がその後の人生を変えられた」と仰っていましたが、自分もいつか歴史を変えられるように、先生からいただいた恩を次の世代に渡せるように、これから頑張っていきたいと思います。本日はありがとうございました。(高2)
- ・小学生のころから薬学系の道に進みたいと考えていたが、高3の春に理工学、特にIT系の道に興味をわき、今、学部選択に悩んでいる。しかし、鈴木先生のように、興味をもったことはすべてやるという選択肢もあると改めて理解できた。ここで選択した学部や学問がすべてではなく、人生はこの先90年と長く、いくらでもやりたいことをやれるとわかった。18歳の学力の差は誤差という話にもとても興味をもった。大学がゴールではなく、スタート地点という考え方を心に留めて、28歳~30歳のとき自分に何ができるのかを考えながら生きていきたい。今回の講演で、自分が市川高校で学んでいるという状況がどれだけ恵まれているか、改めて実感した。自分は勉強が好きだが、興味をもっている2つの分野の方向性が違うため、それが悩みであった。しかし今回の鈴木先生のご講演を聴いたことで、これから他の人に何を言われても自分の道を進んでいこうと思った。今自分が高3で人生の岐路に立っているということもあり、今まで聴いた講演の中で最も自分のためになり、最も興味をもった。このタイミングで様々な経歴をお持ちの鈴木先生のご講演を聴けたことはとても貴重な経験となった。いつか「すずかんゼミ」に参加したい。(高3)



(文責 中野 恵介 先生)